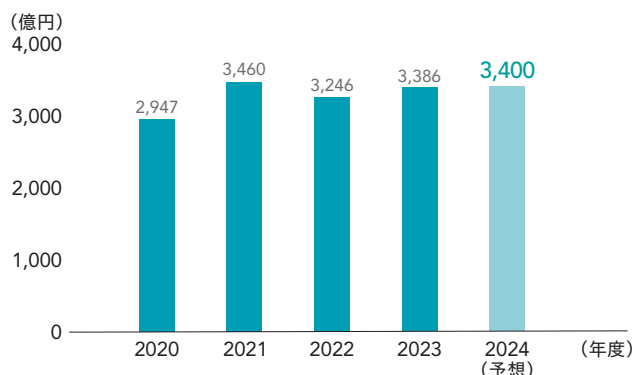


# 財務ハイライト・非財務ハイライト

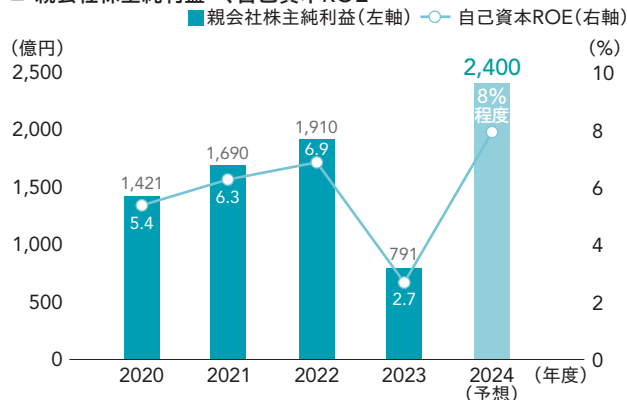
## 財務ハイライト

### ■ 実質業務純益



法人と信関連手数料や資産運用・資産管理関連手数料が好調に推移したことから、2023年10月に上方修正した予想をさらに上回る実績となりました。

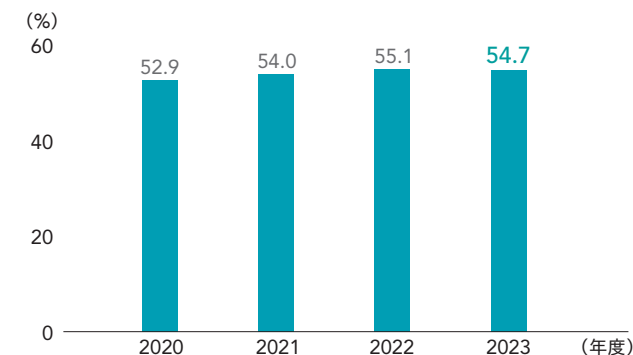
### ■ 親会社株主純利益※1、自己資本ROE※2



※1 親会社株主に帰属する当期純利益 ※2 算出方法はP.116ご参照

親会社株主純利益は、ヘア投信の損失処理を推し進めた結果、前年度比減益となりました。なお、ヘア投信の損失処理による当グループの資本十分性への影響はなく、当該処理により将来の利益目標達成の確度は向上しました。

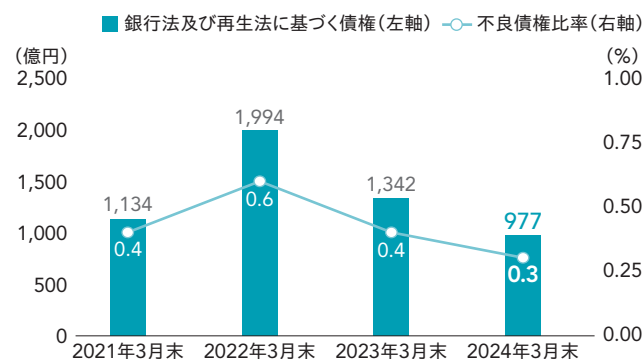
### ■ 手数料収益比率※



※手数料関連利益 ÷ 実質業務粗利益

手数料関連利益は、前年度比増益となりましたが、手数料関連利益以外の増益割合が大きかったことから、手数料収益比率としては前年度を下回りました。

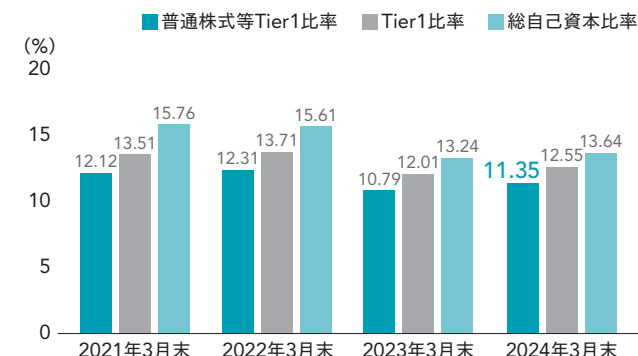
### ■ 銀行法及び再生法に基づく債権※、不良債権比率※



※三井住友信託銀行（単体）

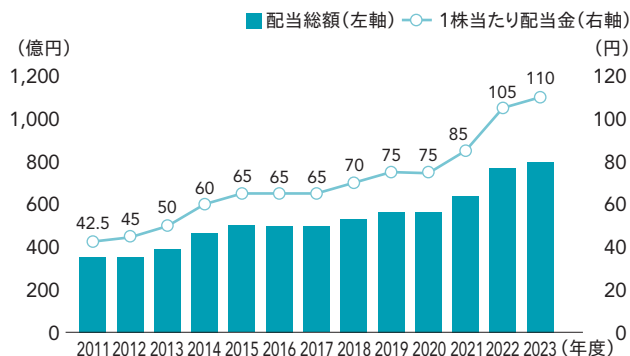
2024年3月末の総と信34兆円に対し、不良債権比率は0.3%と引き続き低位にとどまっており、健全な水準を維持しています。

### ■ 自己資本比率等



いずれも規制上の所要水準を十分に上回る水準を維持しています。

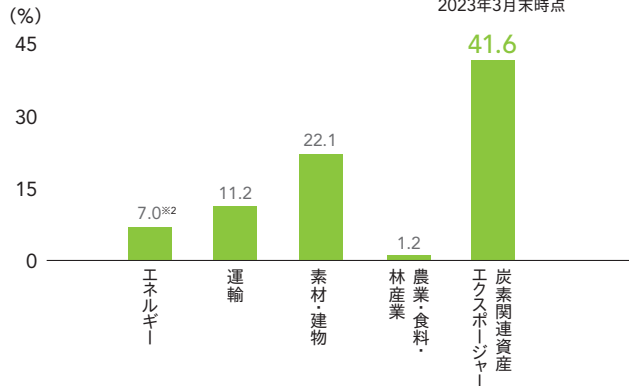
### ■ 1株当たり配当金※



※2016年10月に実施した株式併合および2024年1月に実施した株式分割の影響を考慮

1株当たり配当金は、持続的な利益成長を通じて、安定的な増配を目指す姿勢をより一層明確にするため、2023年度より累進的な配当運営を導入しています。

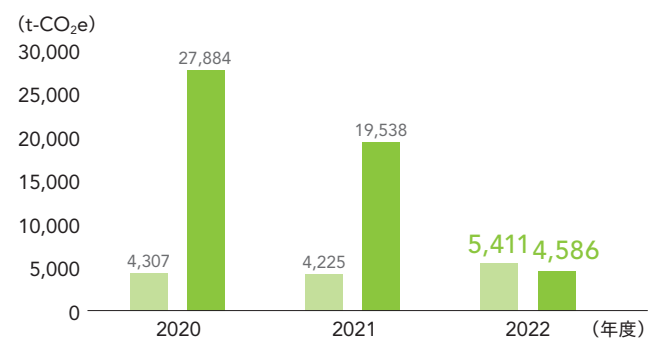
## 非財務ハイライト

E 炭素関連資産エクスポージャー（貸出金額<sup>※1</sup>に占める割合）

※1 三井住友信託銀行、泰国三井住友信託銀行の貸出金、支払承諾、コミットメントライン等の合計

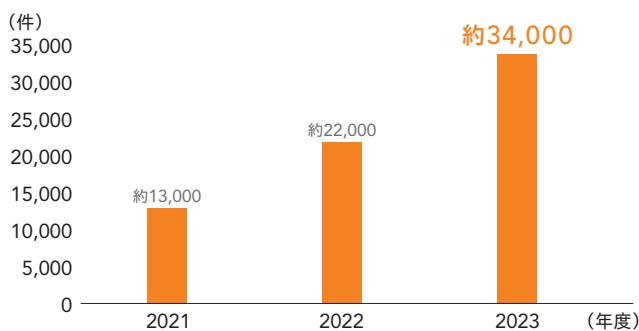
※2 再生可能エネルギー関連2.5%を控除後の数値

2023年3月末時点の炭素関連資産エクスポージャーは16.3兆円です。

E Scope1・2排出量<sup>※1・2</sup>

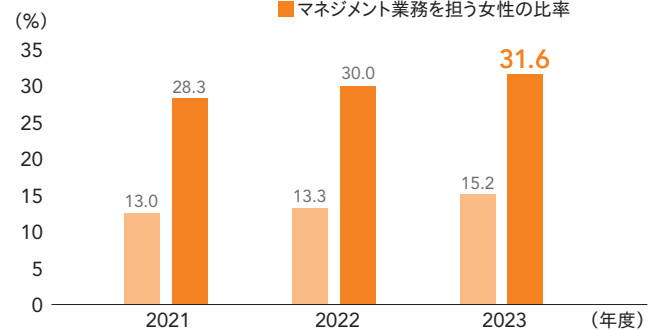
※1 三井住友トラスト・ホールディングスおよびグループ連結子会社の国内外拠点（持分法適用会社は除く）

※2 三井住友信託銀行国内拠点は「エネルギーの使用の合理化等に関する法律」に準拠して算定

S 高齢者金融包摂関連サービス件数<sup>※</sup>

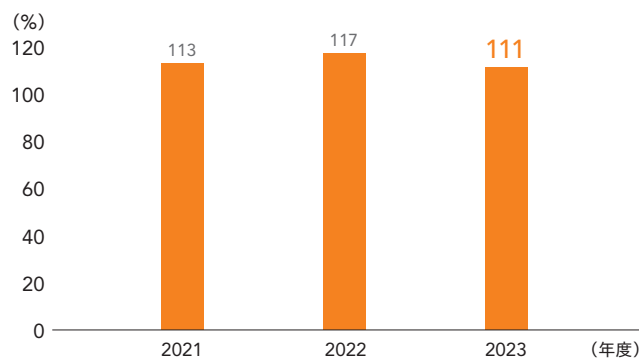
※三井住友信託銀行 対象商品：人生100年応援信託〈100年パスポート〉、〈100年パスポートプラス〉、民事信託サポートサービス（信託口座）

判断能力の低下を迎えてもお客さまの状況に応じた財産管理、資産運用を支えるサービスの取り扱いを拡大しています。

S 女性管理職比率<sup>※</sup>

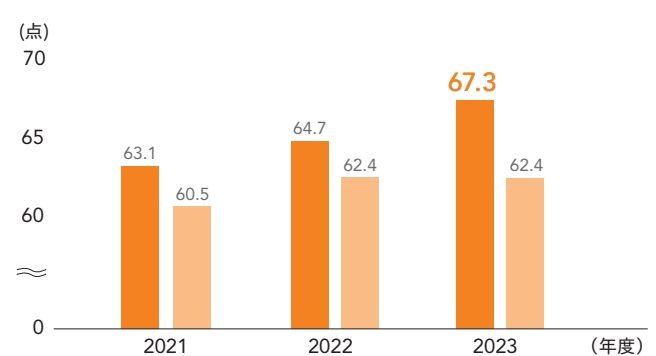
※三井住友信託銀行

三井住友信託銀行では、2020年4月から意思決定ラインにおける女性を増やすことを目的に女性管理職比率向上に関する行動計画を策定し、女性活躍推進の取り組みを加速させています。

S 男性育児休業取得率<sup>※</sup>

※三井住友信託銀行

2022年度には、産前・産後に男性社員が長期の育休を取得することが可能なベビーケア休暇を新設しています。

S 社員意識調査<sup>※</sup>

※三井住友信託銀行

社員のエンゲージメントを図る活性度や満足度は三井住友信託銀行の基準としてポジティブなスコア（60点）を維持しています。